

活動報告書

報告者氏名：塚口 美恵 所属： 長野県稲荷山養護学校

記録日：2013年 2月 12日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部進学コース 1学年の女子生徒3名（A、B、C）

・ 障害名

A生：脳性まひによる体幹機能障害

B生：後天性脳性まひ

C生：脳性まひによる両四肢機能障害

・ 障害と困難の内容

A生：パソコンなどIT関連の操作が苦手。次の行動に移すのがゆっくりで、完成した時はよいものが出来るが、それに至るまでが多く時間を要する。中学時は原級の教室へ行けずにいた。コミュニケーションをとるのに時間がかかる。

B生：不随意運動があり、字を書いたり細かい作業をしたりすることが難しい。言葉が不明瞭なときがあり、本人も気にしているので話す時に早とちりや勘違いが多い。そのため、同年代と気軽に話をするに対して恐怖心を持っている。

C生：音声を聞いて言葉に発することが難しい。特に英語では、質問をしても英語が出てこない。リーディングになると一つ一つの単語を教師が教えていかないと読めない。また、短期記憶、長期記憶と両方とも苦手なので、単語が覚えられない。社会参加の経験が少ない。

【活動目的】

・ 当初のねらい 体に不随意運動があり、書くことが困難だったB生にノートを簡単にとれるようにと使い始めた。また板書を写真に撮りテスト勉強に使った。パソコンだと立ちあげるのに時間がかかったり、移動するのに重たかったりしていたが、使いたいときにすぐ使えるということで、徐々にパソコンから移行していった。A生、C生に関しては経験値が少ないので、自分の行動範囲が広がるように、行きたい店や見たい映画を検索して、iPadを持ちながら外出するということを目的として使い始めた。徐々に各教科で様々な使用を試みていき、ニーズに応じて対応していった。

・ 実施期間 8月末～現在（2月）

・ 実施者 松井 美由紀（英語科）、塚口 美恵

・ 実施者と対象児の関係

クラスの担任、教科担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

各教科、学力の差がある。特定の生徒が低いということではなく、国語はB生、英語はC生といったようにそれぞれ違っている。特に開きがあるのが英語で、A生は予習復習をきちんとやり、英語が大好きであるが、C生は英語で質問をしても日本語でまったく違う返答をしていた。中一の簡単な英単語もほとんど見についていない状態だった。その2人が同時に授業を受けると、どうしてもC生の個別指導に時間がかかり、A生は待っている時間が増えていくという流れになってしまっていた。

・活動の具体的内容

リーディングの時間に「voice dream」を使用した。英語のテキスト（word）をクラウドのDropboxに入れてから、voicedreamを開き、Dropboxに接続して使用する。読み上げ機能の速さや外国語の設定をしてから使用する。自分が読みたい箇所をタッチして、再生していくと英語をととても良い発音で読みあげていく。リーディングの時間は、A生、B生は一人で好きな速さで読む練習をし、C生は教科担任と一緒に練習をすることができる。また、家へ持ち帰って練習をすることもできる。

・対象児（群）の事後の変化

C生は単語を一つずつ区切って読むことしかできななかったが、2単語以上つなげて読む回数が増えてきた。また、家で練習することができるので、英語を声に出して話すことに対して抵抗感がなくなり、スピーチの時も自分から話すことが多くなった。

A生は、自習学習する時間が増え、更に英語に触れる機会がおおくなった。英検準2級も一次を合格することができた。

B生は、はっきり発音することができなかつたので、途中で途切れてしまうことが多かったが、音声を聞いてそのまま発音し、繰り返し練習する時間が増えた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

英語の時間に英語科が一人で指導をすると、なかなか個別の時間がとりにくかったが、VoiceDreamを使用することによって、個々の能力を伸ばし、また職員が評価しやすくなったと思われる。また、STとして他の教科の職員も一緒に指導ができる。

・エビデンス（具体的数値など）

C生の英語のテスト成績

1学期期末45点だったのが、2学期中間16点になってしまい、職員と相談をしながらスピーチやノートのチェックをしつつ、同時にリーディングの学習も進めたところ2学期期末40点まで上がった。4月当初、C生の英語に関しては成績は下降するのみと思われていたので、成果が出たと考えられる。

・その他エピソード（画像などを含めて）

図1のB生が最初にiPadを使い始めて、半年が過ぎようとしている。現在、パソコンと併用して、自分でTPOを考えながら一つのツールとして使用している。英語のスピーチでは、「keynote」を使い、プレゼンテーションをしながら自分の伝えたいことを話すようになってきている。A生は寄宿のクリスマス会に皆の前で、プログラムや歌の歌詞を「keynote」で視覚支援をした。周りから誉められて、自信をつけてきている。



図1 英語の reading の時間

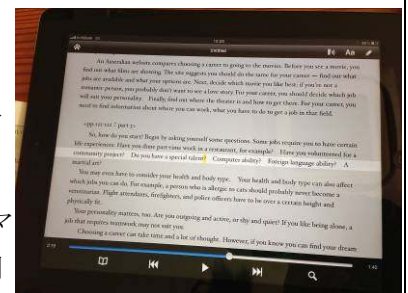


図2 VoiceDream の画面